

# 環境教育「まず、今できることから」

## 歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会  
 編集者：代表幹事 高橋 賢一  
 連絡先：市民活動支援センター  
 尾張旭市澁川町三丁目5番地7  
 (澁川福祉センター内)  
 TEL 0561-51-2878



どこまで世の中は便利になるのだろうか。現金も直接やりとりしない買物が普及するかもしれない。空を飛ぶ車の実現によって政府が真剣に検閲を始めたそうだ。そんな技術革新の加速を思わせろ。スモークのストローをやめようとする動きは、海を汚染してきたプラスチックをわれわれは何とかなしなればならぬ。ストローはその象徴に於いて、外食大手のオカシラックや、コンビニエンスストアは全廃する方針を決めた。

米コーヒータウンのスターバックスでは、海外では同様の動きが先行している。考えてみれば、なかなか便利な道具である。冷めたものなどおしく飲めて、子どもや弱者にも優しい。軽くて、何よりも安価だ。たぶん、人種が自ら便利を手に放したまふ、例はそうとう多い。



背後にある大量のプラスチックを含め、どこまで減らせるか。問われているものは、なかなか大きかった。道む方の男ばかりでなく、退いて守る方の沈黙も。両着が揃って真の勇氣が、後下がる沈着る勇氣が必要なのだろう。

今年の梅雨明けは全国的に早いままに感じていたが、そうではなかった。人の目を欺いていたわけではなからうが、西日本から東日本にかけて梅雨前線がしぶとく居残っていた。そこに南からの暖かく湿った空気が流れ込み、この記録的な大雨になったと聞く。



気候変動による高温化の影響が、どうも「異常中」記録的「銀河」がもはや「普通」になりつつあることとおそれる。そして大勢の犠牲に大粒の空知らぬ雨も降る。空から降る雨とは、涙のことである。科学技術がいかに進歩しようとも、雨を獣につけこんで、とばさない。備えるしかない。

